

世界を知り尽くした 岡村龍哉

岡村 龍哉の宝石・健康紀行「イギリス」&「フランス」編 (2008)

関西空港から **ロンドン** の **ヒースロー空港** に辿り着くのに直行便で **12時間15分** を要した。JALのビジネスクラスを利用した旅だが、思ったよりは快適な空の旅であった。では、少し航空機内の様子と過ごし方を紹介しよう。



席はほぼ埋まっている。珍しいことだ。失礼だがセレブの気配は感じない。食事はまずまず、客室乗務員のサービスは日本式サービスの典型だ。KLMに比べると数段良い。岡村はいつもシャンパン片手に映画を見て過ごす。今回は3本の映画を堪能した。3本目の映画の内容はほとんど記憶が無い。いつものことだ。あっという間のフライトだ。シャンパンを飲むとまさに時間が短縮される。 **首都ロンドン(約755万人、都市圏人口は約1300万人)** のヒースロー空港はとても懐かしく感じられた。外国の母国?に帰ってきたような気がする。



西ヨーロッパの北海に位置する日本より小さな国、 **イギリス**（イングランド・ウェールズ・スコットランド・ノーザンアイルランドの面積:244,820Km², 総人口:約**6000万人**）を幼少の頃からこよなく愛してきた岡村は長旅の疲れを感じない気持ちに包まれていた。2007年3月には最後の1台だった日本製自動車もイギリス製自動車に替え、全ての保有自動車をイギリス社製にした。迎えに来ていた国産車に乗り込み『**オックスフォード**』（約**13万人**）へ向かった。今回のイギリス訪問は、1995年設立の株式会社 **JO** が13周年を迎えたことを機に、これからの10年・20年を逞しく力強く歩むべく‘勉強’をする為にイギリス留学に踏み切った。私は、大学は法学部、大学院では経済学を専攻したが、今となってはやはり一昔前の勉強となった。



そこで、

- ① 「最先端のマネジメント学」
- ② 「時代の趨勢を見極める」

③ 「クイーンズ・イングリッシュを体得」

するべくこの地を訪れた。

2008年 が 日英修好通商条約調印 150 周年 を迎えたからではない。数年前のロンドンを思い起こさせる光景が広がっていた。人々は笑顔で活気に満ち溢れていた。首相が トニー・ブレア （イギリス国教からカトリックに改宗したのが話題）から ゴードン・ブラウン （首相就任以来、国民の支持率は低迷し続けている）へ代わっても経済の活気は持続している。今や老大国の肩書きを完全に拭い去った。では、私の留学先の出来事を紹介しよう！（あまり要望が無さそうなので・・・）



ロンドンの観光案内をしよう！新名所となった ロンドン・アイ 、ロングキューがいつも続いている。国会議事堂と ビッグベン（時計塔・JO のアトラス 12 リングはビッグベンがヒント） はテムズ川の畔から眺めるので充分だ。

反面、世界有数の博物館である大英博物館は数日を要して訪問すべき名所だ。丁度、始皇帝展が開催中であった。イギリスで中国の歴史とはと一瞬思ったが、あっさりと入場した。とても楽しかった。考えてみると大英博物館の展示は UK 以外の国の展示物ばかりだ。ここでも強者と弱者の歴史を痛感した。



大英帝国の覇権下、世界の植民地支配の歴史は 『ダイヤモンド』 支配の歴史でもあった。

ここで、シンプルに 『ダイヤモンド』 を説明しよう。

正式名を DIAMOND (日本名：**金剛石**，化学成分：C，宝石言葉：**不屈・純愛・不滅・永遠の勇氣**，4月の誕生石) と呼び、モース硬度(押し込み強度) **10** は、地球上の鉱物の中で最高の硬度を誇る。名前の由来は、ギリシア語の「**アマダス**」(=征服されざるもの) に由来し、日本名も仏典の「**金剛不壊**」より由来している。何者にも侵されない硬さ、強さを意味している。



纏わる **物語** としては、マントル起源の火成岩である **キンバーライト** 中に含まれ、気が遠くなるほどの長い年月を要し、**高温・高圧状態** の炭素が一気に地表近くまでに移動することで、**グラファイト** (=石墨) に相変化を起こさず生まれる。産出国は、南アフリカ(イギリスの旧植民地)が有名だが、現在では、世界の総産出量の 10%未満 (5位) に過ぎず、1/4 近くの約 25%をロシアが占めている。



1905年に南アフリカで発見された未カット原石 3106カラット (1ct=0.2g) ‘**カリナン**’ は、総重量 1063ct、105個のダイヤモンドを誕生させた。当時のイギリス国王、エドワード7世へ献上され、最大 530.20ct の「**The Great Star of AFRICA**」は、当時のカット石世界最大の称号を得た。(ロンドン塔にて展示中) ちなみに、**現在の世界最大** は、1997年にタイのプミポン国王の治世 50周年を祝して用意された「**The Golden JUBILEE**」で、この石も **南アフリカ産** の **545.67ct** である。また、ダイヤモンドは、その美しい輝きから、《身に着けているだけで幸運を招き、強い魔除けの力が有り、運を好転させる。》と信じられてきた。唯一の単一元素成分で等軸晶系の《**永遠の愛の証**》を代名詞に持つジュエリーは、美しく光り輝く光沢は無色透明である。しかし、

C (炭素) 結晶に **N** (窒素) が加わると **イエローダイヤ** へ、
Mn (マンガン) が加わると **ピンクダイヤ** へ、そして、
Fe (鉄分) が加わると **ブルーダイヤ** へとその表情を変える、

【**ブルーダイヤは無色透明の2~3倍と価値が高く**】 なるので、是非、一つ

は揃えたい憧れの Jewelry だ。



今日は、**フランス**（面積：675,417Km²、人口：約6400万人）の**首都パリ**（約217万人、都市圏人口は約1200万人）へ向かおう。キングクロス駅から**ユーロスター**に乗り、ドーバー海峡の海底トンネルを通り、パリ北駅へは**2時間10分**で移動した。イギリスとフランスの時差は1時間である。ファーストクラスは食事が付いているが、愛飲のビールは無く、シャンパン・各種ワインのみだ。**65,000円程が往復の運賃**だ。妥当な価格設定だ。

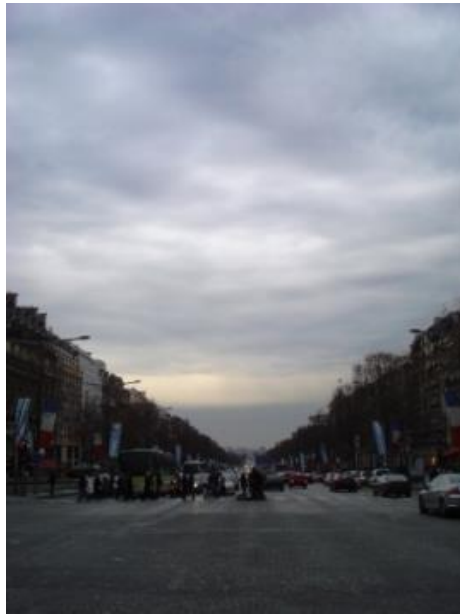
ヨーロッパ人は鉄道の旅を、

「ラグジュアリー」「セーフティー」「アミューズメント」

と考える向きがあり、空の旅より割高になる。



余談だが、ユーロスターは30分前に搭乗が開始される。もちろん、国境を越えるので、セキュリティーチェックとパスポートコントロールが行われる。出発国側のロンドンでフランスの入国審査を行う。飛行機同様、パスポートは必携だ。パスポートへのスタンプは、昔懐かしき蒸気機関車風の絵柄付だ。パリは、ロンドンより暖かかった。前回に来た際よりも更に街が整備されていた。ニコラ・サルコジ大統領の施政の影響か、**‘バカンス大国’** のバカンス病が鳴りを潜め、ビジネスの活気を感じた。





早速、観光だ！大好きな **ヴァンドーム広場** の中心にある宝石店で 『**アクアマリン**』 が目に留まった。いかにもパリの景色に似合う鮮やかで艶やかなトリコロールに含む ‘**水色の石**’ だ。マドマワゼルに **SVP** (S’ il vous plait) して、**Judge of jewelry** (宝石鑑定人) の出番だ。視力が裸眼で両眼とも 1.2 の岡村はルーペが無くてもおおよその鑑別・鑑定が出来る。どうやら、アクアマリンの中でも、**最高品質** の 『**アクアマリン・サンタマリアアフリカーナ**』 のようだ。南東アフリカに位置する **モザンビーク** (南アフリカに隣接) で採れる ‘**少し深いグレイ色帯びたみずみずしいブルー色**’ が特徴の石だ。

ここで、シンプルに 『**アクアマリン**』 を説明しよう。



正式名を **AQUAMARINE**（日本名：**藍玉**，化学成分： $\text{Be}_3\text{Al}_2(\text{SiO}_3)_6$ ，宝石言葉：**沈着・勇敢・聡明・知的**，**3月の誕生石**）と呼び、モース硬度（押し込み強度）は、**7.5~8** でエメラルドと同様だ。名前の由来は、**アクア**は水、**マリン**は海 であり、**海水** を語源とする。産地は、**ブラジルのミナス・ジェライス州のテオフィロ・オトニの北部一帯が有名** だ。アクアマリンはエメラルドと同種の **ベリル宝石** にも関わらず、その特徴は対照的である。アクアマリンはかなり大きい石でも、拡大顕微鏡検査でインクルージョン（内包物）が認められない程の透明清涼な石にしばしば遭遇する。また、**細かい直線のチューブ・インクルージョンが発達し易い特性** を有す。

纏わる**物語** としては、神話の世界では、はじめ **海底の美しい人魚の宝石** であったものが、宝石箱から零れ落ち、浜辺に打ち上げられ広まったとされる。また、**《順調な航海を祈る》** 船乗りのお守りとして重宝されている。（**ポルトガル** の**エンリケ航海王子も携帯**、モザンビークはポルトガルの旧植民地）『**アクアマリン**』 は、小判型のオーバーラップ・ブリリアントカットで仕上げ、**【プラチナ素材で ‘Cool’】** に使いたい **JO** カラーの **Jewelry** だ。





余談だが、 [ナポレオン・ボナパルト](#) に会いに行った。彼の眠る場所は、皇帝の住まいの如く眩しく彼の人柄を表現していた。歴史上の人物は死後なおオーラを発信している。感じるものがとても多い旅となった。インスパイアされた “志” を青く高い大きな空を通じて日本へ届けよう！

